

OMU Students 海外留学レポート



氏名 KH
所属 商学部 商学科
学年 4年

留学先 深圳大学
留学期間 2023/8/29~2024/7/27

留学レポート Study Abroad Report

私は中国の深圳大学へ 11 か月間の交換留学に行きました。もともと長期留学に行きたいと考えており、第二外国語で中国語を選択していたことや、英語以外の言語を習得したいと思っていたこと、世界における中国の存在感が益々強くなっていることといった理由から、中国へ留学することを決めました。中国へ留学する日本人は少なく、情報も少ないため、このレポートが皆さまの中国留学を後押ししたり中国留学に対する不安を解消できたりするものになれば良いなと思います。

深圳大学について

深圳大学はその名の通り、深圳という街にある大学です。深圳は経済特区の一つで、中国の4大都市の一つでもあります。ここ40年で発展した新しい街で、ゆえに街中も綺麗に整備されおり、非常に暮らしやすい場所です。そしてすぐ近くに香港があり、日本人はビザなしで香港へ渡航可能、また日本と香港を行き来する安いフライトもたくさんあります。ゆえに、何かあった際はすぐに日本へ帰ることができるし、例えば仮にビザに問題が発生したら一時的に香港に滞在することが可能です。正直、中国という情勢が安定しない国で留学するにあたり、香港が隣にあることはとても大きな安心要素でした。

とは言いつつも、深圳や深圳大学での留学生活は非常に楽しいものでした。中国の大学はキャンパス内に寮やスーパー、病院、美容院など生活に必要な施設が全てそろっており、学生はほぼ全員学内の寮で生活しています。その他にも、沢山の食堂やコンビニ、カフェ、運動施設があり、その充実したキャンパス生活は日本の大学生である私にとって非常に新鮮でした。そして、留学生は留学生寮で生活します。1人部屋と2人部屋があり、私は1人部屋を選択しました。部屋は10畳ほどで、トイレとシャワーは各部屋にあります。綺麗とは言えませんが、生活する上で困ったことは特にありませんでした。また、寮の目と鼻の先には大きな食堂があり、おかず系や麺料理、鍋料理、サラダやフルーツまで、非常に多くの料理を1食150~400円ほどで食べることができます。また、キャンパス内はどこも綺麗に整備されており、散歩やランニングをするのが日課でした。このように、深圳大学での生活は非常に充実したものでした。



授業について

前期は中級中国語、後期はビジネス関連のクラスを受講しました。そして前期・後期ともに午前に授業があり、午後は基本的にフリーでした。そのため、午前に授業を受けた後、午後は寮にある自習室や学校の外のカフェで勉強をすることが多かったです。特に後期は、自分の語学力よりも高いレベルの授業を取ったため、学期初めは難しくて度々心が折れそうになりました。しかし、毎日欠かさず予習・復習を続けると段々と授業についていけるようになり、最終的には好成績を取って留学を終えることができました。

日常生活

授業後は毎日クラスメイトと食堂で昼食を食べ、夜は週に3回程のペースで友人と外食していました。中国は食費が安く、一度の外食代が1000円余りであったため、あまりお金を気にすることなく友人と食事をできたのは非常にありがたかったです。また、友人との交流は語学力を伸ばす上でも非常に大事な時間です。特に後期は中国人の友人を沢山作り、さらに中国語が上手な留学生の友人と遊ぶ機会も多かったため、リスニング力とスピーキング力がかなり上がりました。そして何より、彼らと遊んだ日々は、一生忘れられない思い出です。

また、私にとって留学は、旅行という新たな趣味を見つけたきっかけでもあります。中国は長い歴史と広大な土地を有していることから、旅行が楽しい国でもあります。私は約1年で中国の17都市へ旅をしました。同じ国なのに、行く地域によって景色も気候も食べ物も歴史も言葉も人種も異なり、旅行を重ねるたびに中国をさらに好きになっていきました。



中国留学のメリット・デメリット

メリット

- ・生活が便利。デリバリーやネットショッピングが発達しており、スマホひとつで何でも買えます。また、完全キャッシュレスで財布も不要です。大体の都市では地下鉄があり、バスも通っているため、交通の便も良いです。それに加え、タクシーの料金が安いので気軽に利用でき、さらにはどこでも乗り捨て可能なシェアサイクルサービスがあるため、移動手段の選択肢が多いことが魅力的です。
- ・物価が安い。例えば、電車賃は1回40~150円、水1本50円と、基本的に物価は高くありません。円安を考慮しても生活費は日本よりも低く、代わりに娯楽費に多く回すことができました。
- ・ご飯が美味しい。同じ東アジアで比較的食べなれた味付けであるため、食事で困ることはあまりありませんでした。また、一口に中国料理と言っても様々な種類があり、どこへ行っても沢山のご飯屋さんがあり、本当に美味しい食べ物で溢れています。
- ・日本人留学生が少ない。私がいた深圳大学は日本人の数が比較的少なく、特に後期は日本人と関わる機会がほぼありませんでした。ゆえに、強制的に中国語を話さなければいけない環境に常にいたため、良い練習の機会になりました。
- ・怖くない。多くの日本人は中国に対して「怖い」「危険」といったイメージを持っていると思いますが、

全くそんなことはありません。治安は非常に良く、ベンチで昼寝をするおじいちゃんや、広場で踊るおばちゃん集団をよく見かけ、平和だなと感じる瞬間が多々あります。また、日本人差別のようなものを受けたこともありません。逆に、自分が日本人だと言えば興味を持って話してくれる人ばかりで、危険な目に遭ったことは、私はありませんでした。

デメリット

- ・トイレが汚い。基本的に和式で、紙は流せず、あまり清潔でないことが多いです。しかし、大型ショッピングセンターのトイレには日本に負けず劣らず清潔なところもあります。とは言っても、綺麗なトイレだけを探して使うというのは現実的ではなく、諦めて慣れるしかありませんでした。
- ・街中で英語が通じない。日常生活は基本的に中国語以外通じません。日本以上に英語が通じないと思います。そのため、中国語がほぼできなかった渡航当初はコンビニで物一つ買うのにも苦勞しました。しかし、嫌でも中国語を学ばなければならない環境に身を置かれるため、中国語を学びたい学生にはピッタリだと思います。
- ・外国人の生活が少し不便。中国人は身份证という身分証明書（マイナンバーカードのようなもの）をもっており、チケットの予約やアプリの登録など至る場面で身份证が必要になります。大体の場合はパスポートも対応しているのですが、たまに身分証のみ対応の場合があり、その時は、外国人はチケットを購入できません。また、外国人宿泊不可のホテルもいくつかあり、外国人として中国で生活する上でたまに不便を感じました。



中国留学を終えて

私が留学を通して、大きく2つのことを得ました。最も大きな収穫は、中国という国を知れたことです。連日中国についての悪いニュースが目飛び込み、中国を嫌う人は非常に多いですが、中国の中で生活すると魅力ばかりであることに気づきました。街は清潔で治安はよく、美味しいごはんが溢れ、人々も親切で優しいです。中国生活を楽しむ私の様子を見て、友人や家族が深圳に遊びに来てくれたのですが、皆口をそろえて「中国のイメージが変わった」「中国が好きになった」と言ってくれました。そのくらい中国は魅力のある国で、それを自分の目で見て確かめ、中国を好きになれたことは、今後の私の人生にきっと影響を与えるだろうと思います。2つ目は、自分に自信がついたことです。見知らぬ土地で1年間生活できたこと、文化の違いに対応しながら人々と交流したこと、中国語が不自由な状態から中国人と深い話をできる程にまで成長したこと、これらの事実は全て私に自信を与えてくれました。特に、私には努力が続かないという短所があったのですが、コツコツと努力を続け、中国語力を伸ばしたという成功体験は、私の長年の苦手なものを克服するものとなりました。この貴重な経験を無駄にしないよう、帰国後の生活や大学卒業後の人生に対しても向上心をもっていきたいと思っています。